

I. 導入

おはようございます。先週の聖書箇所の中に、**使徒 8:5** がありました。
「**フィリポはサマリアの町に下って、人々にキリストを宣べ伝えた。**」サマリアで、フィリポは大胆にイエスの福音を宣べ伝え、大勢のサマリア人たちが信じて洗礼を受けました。その中に魔術師シモンとして知られる男もいました。



今朝は、フィリポのサマリアでの働きについて続けて学んでいきます。また、シモンという男に起こったできごともしっかり見ていきたいと思えます。では、使徒 8:14-25 をお読みしましょう。

II. 聖書朗読 使徒言行録 8:14-25, (新共同訳)

8:14 エルサレムにいた使徒たちは、サマリアの人々が神の言葉を受け入れたと聞き、ペトロとヨハネをそこへ行かせた。 8:15 二人はサマリアに下って行き、聖霊を受けるようにとその人々のために祈った。 8:16 人々は主イエスの名によって洗礼を受けていただけで、聖霊はまだだれの上にも降っていなかったからである。 8:17 ペトロとヨハネが人々の上に手を置くと、彼らは聖霊を受けた。

8:18 シモンは、使徒たちが手を置くことで、“霊”が与えられるのを見、金を持って来て、
8:19 言った。「わたしが手を置けば、だれでも聖霊が受けられるように、わたしにもその力を授けてください。」 8:20 すると、ペトロは言った。「この金は、お前と一緒に滅びてしまうがよい。神の賜物を金で手に入れられると思っているからだ。 8:21 お前はこのことに何のかかわりもなければ、権利もない。お前の心が神の前に正しくないからだ。 8:22 この悪事を悔い改め、主に祈れ。そのような心の思いでも、赦していただけるかもしれないからだ。 8:23 お前は腹黒い者であり、悪の縄目に縛られていることが、わたしには分かっている。」

8:24 シモンは答えた。「おっしゃったことが何一つわたしの身に起こらないように、主に祈ってください。」 8:25 このように、ペトロとヨハネは、主の言葉を力強く証して語った後、サマリアの多くの村で福音を告げ知らせ、エルサレムに帰って行った。

III. 教え

人数の詳細は記されていませんが、短期間の間に大勢のサマリア人がイエスを信じ、洗礼を受けたことは明らかです。その様子は、この写真のような光景だったかと思われます。これは、ホンジュラスで人々が洗礼を受けようと列に並んで待っている様子です。主はフィリポを用いてサマリアにいた数多くの人々に働きかけられました。ヨハネ4章で、イエスはサマリアを訪れ、井戸のところサマリア人の女と出会われました。そのとき、サマリア人に対するご自身の愛を示してくださいました。



神は、サマリアで大きな働きをなさっていました。その知らせは瞬く間にエルサレムに広がりました。**使徒 8:14 「エルサレムにいた使徒たちは、サマリアの人々が神の言葉を受け入れたと聞き、ペトロとヨハネをそこへ行かせた。」**(絵画ユーージーン・バーナンド) ペトロとヨハネ



が訪ねたということは、サマリアでの神の御業を聞いて彼らが喜んでいたということです。また、フィリポが自分の働きについて使徒たちにきちんと報告していたこともわかります。

使徒 8:15-16「**8:15** 二人はサマリアに下って行き、聖霊を受けるようにとその人々のために祈った。**8:16** 人々は主イエスの名によって洗礼を受けていただけで、聖霊はまだだれの上にも降っていなかったからである。」サマリアの信徒たちはイエスを信じて洗礼も受けていました。しかしここで、聖霊は彼らの上に降っていなかったとあります。聖書全体の内容から、この部分は聖霊に満たされていなかったと解釈するのがよいと思われます。というのも、イエスを信じる者は誰でも、信じたそのときから内住の聖霊が与えられるといくつもの聖書箇所が教えているからです。

例えば、**エフェソ 1:13-14**にはこうあります。「**1:13** あなたがたもまた、キリストにおいて、真理の言葉、救いをもたらす福音を聞き、そして信じて、約束された聖霊で証印を押されたのです。**1:14** この聖霊は、わたしたちが御国を受け継ぐための保証であり、こうして、わたしたちは贖われて神のものとなり、神の栄光をたたえることになるのです。」これらの箇所は、イエスを信じた瞬間に聖霊の証印が押されることを明らかにしています。聖霊が与えられることによって、神の子とされた私たちが救いを受け継ぐ保証となります。

ですから、サマリア人もイエスを信じたときに聖霊を受けたはずですが、しかし、聖霊に満たされてはいなかったのです。聖霊の満たしは、奉仕に必要な力を信徒が授かる祝福です。また、多くの場合、コリント第一 12 章に記されるような霊の賜物が伴います。そういうわけで、ペトロとヨハネがやってくる前のサマリア人の状態は、使徒 2 章で聖霊が下る前の使徒たちの状態に似ています。**ヨハネ 20:21-22**には、イエスが弟子たちに聖霊をお与えになったとあります。「**20:21** イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」**20:22** そう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。」

このときから、弟子たちには聖霊が与えられていました。しかし、ずっと後になって使徒 2 章で、彼らは聖霊に満たされ力を受けるというまったく新しい体験をします。**使徒 2:4**「**2:4** すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話しだした。」ジーサス・マファ・プロジェクトによるこの絵でもわかるように、使徒 2 章に記される聖霊降臨は間違いようのない際立ったできごとでした。これによって、弟子たちは働きのための力を得たのです。



使徒 8:17 で、使徒たちはサマリアの信徒たちが聖霊に満たされるよう祈りました。「ペトロとヨハネが人々の上に手を置くと、彼らは聖霊を受けた。」詳しいことは記されていませんが、この内容から、ペトロとヨハネがサマリア人のために祈ったとき、サマリア人の信徒たちが劇的な形で聖霊を受けたことは確かです。



ところで、ここでは手を置いて祈ると聖霊の満たしがありました。けれども、手を置くことが必須条件ということではありません。今後の学びに登場しますが、使徒 10 章では、ペトロがまだ話している間にコルネリウスと家族が聖霊に満たされました。コルネリウスが聖霊を受ける前に彼に手を置いた人は誰もいません。聖霊が、誰の手も介さずに直接コルネリウスに臨まれたのです。私自身の体験もそうです。私が初めて聖霊に満たされたとき、私は車を運転しながら祈っていました。車の中は私一人しかいませんでした。ですから、聖霊に満たされるために必ず手を置かなければならないわけではありません。あなたが心を開いて、祈りつつ主から受ける体験と力を望むなら、神はみこころのときにそれを与えてくださると信じます。

しかし、どのような動機かが非常に重要です。自分が得するためだったり、他の人を羨ん

だりという理由で聖霊の力を求めるのは、大きな間違いです。今日の聖書箇所にはその一例が記されています。先週のメッセージで、フィリポが洗礼を受けた人の中に、シモンという名の男性がいたのを覚えているでしょうか。使徒 8:9-11 をもう一度読んで、思い出してみましょう。「8:9 ところで、この町に以前からシモンという人がいて、魔術を使ってサマリアの人々を驚かせ、偉大な人物と自称していた。 8:10 それで、小さな者から大きな者に至るまで皆、『この人こそ偉大なものといわれる神の力だ』と言って注目していた。 8:11 人々が彼に注目したのは、長い間その魔術に心を奪われていたからである。」

人々は、シモンの魔術に驚いていましたが、フィリポがやって来ると、フィリポを通して行われる主の奇跡はシモンの魔術よりはるかに偉大で、まったく異質のものだということがはっきりわかりました。シモンも、フィリポのうちにある神の力に気づいて、イエスを信じ洗礼を受けました。シモンはフィリポの働きにみられる力にたいそう驚いていました。しかし、ペトロとヨハネがやってきて、人々が聖霊を受けるように祈ったとき、すっかり感嘆しました。詳細の記録はありませんが、シモンはいたく感動し、自分もその力がほしいと思ったようです。

たいていの人は、聖霊の力強い満たしを喜んで受けるでしょう。けれども、シモンにはそれ以外にもほしいものがありました。フィリポがやってきたのを機に、シモンに注目する人がいなくなりました。そこで、リーダー的存在に再びのし上がるために、何かを求めていたわけです。シモンは聖霊の満たしを求めていただけではありません。誰に聖霊を受けるか決める権力もほしがっていたのです。シモンの目には、ペトロとヨハネが聖霊をコントロールしているように映ったのでしょう。それで、自分も同じようにしたいと思ったのかもしれませんが、しかし、聖霊をコントロールすることなどできません。また、シモンの動機も不純です。彼は、神の栄光ではなく、自分の栄誉を求めていました。

使徒 8:18-19 「8:18 シモンは、使徒たちが手を置くことで、“霊” が与えられるのを見、金を持って来て、 8:19 言った、『わたしが手を置けば、だれでも聖霊が受けられるように、わたしにもその力を授けてください。』」シモンは、神の賜物を金で買おうとしました。ここからも、彼の心が正しくないことが分かります。シモンはイエスを信じて洗礼を受けましたが、まだまだ罪の中にいました。神の栄光を求めることはせず、自分の力を増すことを望んでいました。

聖霊の力を金で買おうとしたシモンの試みは、あまりにも悪名高く、英語ではこのような罪を表す単語まであるほどです。その単語は、「シモンのな」という意味ですが、教会での権力や影響力、霊的な力を金で買おうとすることを指して使います。例えば、100 万円献金するので役員会議長にしてください、という申し出は、シモンのな罪です。今のところ、OIC でそのような問題は起こっていないのでご安心ください。

聖霊をお金で買おうとしたシモンにペトロはこう応じます。使徒 8:20-23 「8:20 すると、ペトロは言った、『この金は、お前と一緒に滅びてしまうがよい。神の賜物を金で手に入れられると思っているからだ。 8:21 お前はこのことに何のかかわりもなければ、権利もない。お前の心が神の前に正しくないからだ。 8:22 この悪事を悔い改め、主に祈れ。そのような心の思いでも、赦していただけるかもしれないからだ。 8:23 お前は腹黒い者であり、悪の縄目に縛られていることが、わたしには分かっている。』」



アバンチーノ・ヌッチによる絵画には、ペトロの後ろで黒い服を着たシモンが描かれています。ペトロとヨハネは、人々に手を置いて祈っています。しかし、シモンはその働きを中断させました。ペトロは当然のことながら怒って、シモンを悔い改めさせようと厳しく叱責します。シモンは、「祈ってください」と答えましたが、本当に罪を悔い改めたかどうかの真相は明らかではありません。

聖書で魔術師シモン、またはシモン・マグスが登場するのは、使徒 8 章のみです。しかし、聖書以外の書物にもシモンが登場し、教会史ではシモンは異端のはしりと見なされています。シモン・マグスは、本や映画、音楽の世界で人気の座を得ています。

ペトロとシモンの出会いは、キリスト教会と昔からの呪術の習俗との対立関係の始まりともいわれています。魔術の風習は今も続いており、誰でも、有名なマジシャンのひとりやふたりはすぐに思いつくでしょう。過去 100 年で最も有名なマジシャンのひとりに、ハリー・フーディーニがいます。フーディーニはあらゆるマジックを披露しましたが、中でも脱出芸で有名でした。警官に手錠をかけてもらって、らくらくと抜けたりもしました。彼の得意芸に、水中に逆さまに入れられて、そこから脱出するというものがありました。



私は最近、「フーディーニをだます：魔術師、唯心論者、数学博士、そして隠れた頭脳」という本を読みました。そこには、著者がマジシャンになろうとマジシャン養成学校に通い、長い訓練を積んだ経験が書いてありました。本の題名は、あるマジシャンがカードのマジックをしたとき、フーディーニがそのタネを見破れなかったというできごとから取られています。その本によると、フーディーニが見たことのあるマジックで、見破れなかったのは唯一このマジックだけだったそうです。

この本で一番興味深かったことは、フーディーニは一流のマジシャンであると同時に、マジックのタネを見破る名人だったと著者が記していることです。つまり、超自然的な力を持っていると自称する偽マジシャンや占い師、霊媒師なども、実は特別な力があるわけではなく、人間の感情を操って金儲けをしているに過ぎないことを、フーディーニは暴いていたのです。

この本の著者は、マジックには必ずタネがあり、イリュージョンであることを認めるマジシャンを「正直なマジシャン」と呼んでいます。正直なマジシャンは、いわゆるエンターテイナーです。ショーの中で種明かしはしなくても、超自然的なパワーなどない単なる仕掛けだと認めます。私の知る限り、このような正直なエンターテインメントのマジックを楽しむのは、クリスチャンにとっても問題ありません。



一方、まやかしのマジシャンは、超自然的なパワーがあり、死人と話をしたり、未来を言い当てたりすることができるなどと主張します。このようなまやかしのマジシャンは、人をだまして自分の言いなりにさせようとし、神に祈り頼むことをさせないようにします。クリスチャンである私たちは、すべてにおいて主イエスのみを頼りにしたいものです。ですから、このようなまやかしのマジシャンや占い師といった類とは一切関係を持たないようにしましょう。霊媒師や占い師に頼るのは、イエスを十分信頼していないことになります。それは罪です。

聖書は、世の中には悪霊がいると教えます。そして、まやかしの魔術師と関わりあうことで、実在する悪霊と遭遇するような目に遭うかもしれません。しかし、たいていの場合、悪霊は大勢の前で詐欺まがいなことをするような人を必要とはしません。ですから、ハリー・フーディーニが何度も証明したように、いわゆる霊媒師や占い師はまやかしの魔術師で、手品のトリックを使ったり、人の心理や感情を操ったりして、人から金をだまし取っているのです。この世は危険に満ちていますから、私たちは気をつけなければなりません。

IV. 結び

では最後に、聖書箇所をふたつお読みしたいと思います。ひとつは旧約聖書から、もうひとつは新約聖書からです。まず、旧約聖書から、**申命記 18:10-11**「**18:10** あなたの間に、自分の息子、

娘に火の中を通らせる者、占い師、卜者、易者、呪術師、 18:11 呪文を唱える者、口寄せ、霊媒、死者に伺いを立てる者などがいてはならない。」

そして、新約聖書から、エフェソ 5:15-18 「5:15 愚かな者としてではなく、賢い者として、細かく気を配って歩みなさい。 5:16 時をよく用いなさい。今は悪い時代なのです。 5:17 だから、無分別な者とならず、主の御心が何であるかを悟りなさい。 5:18 酒に酔いしれてはなりません。それは身を持ち崩すもとです。むしろ、霊に満たされ、」

聖書が勧めるように、私たちはこの世の諸悪から離れ、主と聖霊の満たしを求めましょう。そうすれば、主の目にかなった歩みをし、御国のために仕えることができるでしょう。では、祈りましょう。

V. 祈り